平成25年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年11月２日

上 場 会 社 名	株式会社ダイショー	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	2816	URL	http://www.daisho.co.jp
代　　表　　者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）	松本　洋助
問合せ先責任者	（役職名）執行役員管理本部広報室長	（氏名）	堀脇　裕之　(TEL)092-611-9340
四半期報告書提出予定日	平成24年11月12日	配当支払開始予定日	平成24年12月３日

四半期決算補足説明資料作成の有無　　：有
四半期決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第２四半期の業績（平成24年４月１日～平成24年９月30日）

（１）経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第２四半期	7,785	―	481	―	488	―	311	―
24年３月期第２四半期	―	―	―	―	―	―	―	―

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第２四半期	32.23	―
24年３月期第２四半期	―	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年３月期第２四半期	12,833	6,721	52.4
24年３月期	12,769	6,488	50.8

(参考) 自己資本　25年３月期第２四半期　6,721百万円　24年３月期　6,488百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	―	8.00	―	8.00	16.00
25年３月期	―	8.00			
25年３月期(予想)			―	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成25年３月期の業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,200	1.1	1,200	△5.4	1,200	△6.4	630	7.0	65.26

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：有

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：有

④　修正再表示　　：無

（注）第１四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料Ｐ４ページ「２．サマリー情報（注記事項）に関する事項」（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧下さい。

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期２Ｑ	9,868,800株	24年３月期	9,868,800株
②　期末自己株式数	25年３月期２Ｑ	215,885株	24年３月期	215,817株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期２Ｑ	9,652,934株	24年３月期２Ｑ	9,653,045株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料Ｐ３ページ「（３）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

平成24年３月期第２四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、平成24年３月期第２四半期の数値及び平成25年３月期第２四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 7
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
４．参考情報 …… 10
前第２四半期連結損益計算書 …… 10
前第２四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第２四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等により緩やかな回復基調が見られたものの、欧州債務問題からなる金融不安の深刻化、円高の長期化や電力の安定供給への懸念などから、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、デフレ傾向の長期化により、消費者の生活防衛意識の一層の高まりによる低価格志向、企業間の競争激化などによる厳しい経営環境が継続しています。

このような状況の下、当社は、「既存チャネルの深耕による収益力強化」「更なる成長に向けた新規チャネルの開拓」を基本方針として掲げ、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

また、素材連動型製品の品揃えを拡充し、これら新製品の市場定着に向けたメニュー提案活動を継続するとともに、お客様のニーズに応じた営業活動の強化にも取り組みました。

品目群別の概況は以下のとおりであります。

たれ類は、「韓国式豚バラ焼肉 サムギョプサルの素」など新製品投入効果や夏場から家庭での牛肉消費が前年対比で上回った影響等により、既存品の「焼肉のたれ」は堅調に推移したものの、「中華系のたれ」などが低調に推移し前年同期実績を下回りました。その結果、売上高は32億６百万円（前年同期比97.9％）となりました。

スープ類は、更なる拡大を目指して製品リニューアルを図り付加価値化を推進し売上向上に努めました。また、日配部門向けに「納豆チゲ用スープ」を発売し、新たなチャネル開拓に取り組みました。その結果、売上高は11億39百万円（前年同期比94.1％）となりました。

ソース類は、「ＣｏＣｏ壱番屋監修 野菜のカレー煮込みソース」を発売し製品の定着、拡大を図ってまいりました。その結果、売上高は５億51百万円（前年同期比119.2％）となりました。

粉末調味料類は、「味・塩こしょう」シリーズは前年同期実績を下回りましたが、業務用製品で総菜、外食向け製品が伸長しました。その結果、売上高は17億76百万円（前年同期比105.3％）となりました。

青汁類は、売上高３億50百万円（前年同期比80.2％）、ドレッシング類は、売上高１億45百万円（前年同期比84.0％）、その他は、売上高５億８百万円（前年同期比79.8％）、仕入商品は、売上高１億６百万円（前年同期比107.7％）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は、77億85百万円（前年同期比97.5％）となりました。利益につきましては、営業利益は４億81百万円（前年同期比83.7％）、経常利益は４億88百万円（前年同期比86.9％）、四半期純利益は３億11百万円（前年同期比99.4％）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第２四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ64百万円増加し、128億33百万円となりました。固定資産が総資産の59.4％を占め、流動資産は総資産の40.6％を占めております。主な資産の変動は、「建設仮勘定」が７億１百万円、「受取手形及び売掛金」が３億72百万円それぞれ増加し、「現金及び預金」が10億71百万円減少したことによります。

負債は、前事業年度末に比べ１億69百万円減少し、61億12百万円となりました。流動負債が負債合計の62.9％を占め、固定負債は負債合計の37.1％を占めております。主な負債の変動は、「長期借入金」が２億30百万円、「買掛金」が１億12百万円、「未払法人税等」が54百万円それぞれ減少し、「短期借入金」が３億円増加したことによります。

純資産は、前事業年度末に比べ２億33百万円増加し、67億21百万円となりました。主な純資産の変動は、配当77百万円の支出と四半期純利益３億11百万円の計上により「利益剰余金」が２億33百万円増加したことによります。自己資本比率は52.4％となり、前事業年度末に比べ1.6％上昇しました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第２四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、12億50百万円となり、前事業年度末に比べ10億71百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益４億88百万円、減価償却費2億16百万円等による資金の増加と、売上債権の増加額３億72百万円、法人税等の支払額２億31百万円、たな卸資産の増加額１億61百万円、仕入債務の減少額１億12百万円等による資金の減少により、前年同期比で１億25百万円支出増の３億５百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の６億67百万円等により、前年同期比で４億20百万円支出増の６億72百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる純収入３億円と、長期借入金の返済２億30百万円、リース債務の返済86百万円、配当金の支払額77百万円等の支出により、前年同期比で97百万円支出増の93百万円の純支出となりました。

（３）業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期決算短信（平成24年５月10日公表）において発表いたしました業績予想からの変更はありません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰延べる方法を採用しております。

② 税金費用の計算

当第２四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当第２四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

３．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：百万円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成24年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,321	1,250
受取手形及び売掛金	2,338	2,710
商品及び製品	453	602
原材料	275	287
その他	366	406
貸倒引当金	△77	△47
流動資産合計	5,677	5,210
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,628	1,573
土地	2,687	2,687
リース資産（純額）	356	297
その他（純額）	1,552	2,201
有形固定資産合計	6,225	6,760
無形固定資産	27	21
投資その他の資産		
投資その他の資産	840	844
貸倒引当金	△2	△3
投資その他の資産合計	838	840
固定資産合計	7,091	7,623
資産合計	12,769	12,833

（単位：百万円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成24年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,410	1,298
短期借入金	460	760
未払金	942	951
未払法人税等	242	188
賞与引当金	350	331
役員賞与引当金	18	9
その他	353	308
流動負債合計	3,777	3,847
固定負債		
長期借入金	1,365	1,135
退職給付引当金	381	395
役員退職慰労引当金	461	487
その他	294	247
固定負債合計	2,503	2,265
負債合計	6,281	6,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	5,343	5,577
自己株式	△114	△114
株主資本合計	6,479	6,713
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8	7
評価・換算差額等合計	8	7
純資産合計	6,488	6,721
負債純資産合計	12,769	12,833

（２）四半期損益計算書
　第２四半期累計期間

（単位：百万円）

	当第２四半期累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
売上高	7,785
売上原価	4,085
売上総利益	3,700
販売費及び一般管理費	3,219
営業利益	481
営業外収益	24
営業外費用	17
経常利益	488
特別損失	0
税引前四半期純利益	488
法人税、住民税及び事業税	176
四半期純利益	311

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	当第２四半期累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	488
減価償却費	216
賞与引当金の増減額（△は減少）	△19
売上債権の増減額（△は増加）	△372
たな卸資産の増減額（△は増加）	△161
仕入債務の増減額（△は減少）	△112
その他	△104
小計	△64
法人税等の支払額	△231
その他	△8
営業活動によるキャッシュ・フロー	△305
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△667
投資有価証券の取得による支出	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△672
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（△は減少）	300
長期借入金の返済による支出	△230
リース債務の返済による支出	△86
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△77
財務活動によるキャッシュ・フロー	△93
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,071
現金及び現金同等物の期首残高	2,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,250

（４）継続企業の前提に関する注記

当第２四半期累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日）

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日）

該当事項はありません。

４．参考情報

前第２四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	8,028
売上原価	4,193
売上総利益	3,834
販売費及び一般管理費	3,278
営業利益	556
営業外収益	22
営業外費用	16
経常利益	561
特別損失	27
税金等調整前四半期純利益	534
法人税、住民税及び事業税	221
少数株主損益調整前四半期純利益	312
四半期純利益	312

前第２四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	534
減価償却費	259
賞与引当金の増減額（△は減少）	△12
売上債権の増減額（△は増加）	△456
たな卸資産の増減額（△は増加）	△427
仕入債務の増減額（△は減少）	195
その他	△33
小計	59
法人税等の支払額	△240
その他	△7
営業活動によるキャッシュ・フロー	△188
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△247
投資有価証券の取得による支出	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△251
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（△は減少）	300
長期借入金の返済による支出	△104
リース債務の返済による支出	△116
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△77
財務活動によるキャッシュ・フロー	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△438
現金及び現金同等物の期首残高	1,830
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,391